

恒常化してきた山中町の田植え行事

2022年5月21日(土)10時~13時、山中町の田んぼで、もち米の田植えの行事が実施された。山中町と比叡平の住民、老若男女数十人が参加。専門家から田植えの実際について、手順が説明され、初めての人も、二度目の人も、プロの人も、田んぼの泥水の中に足を突っ込み、苗を植え始めた。

私も参加。思い切って、裸足になり、ズボンを膝上までまくり、田んぼに入った。一瞬、冷たい、ぬるっとした泥に全身びくりとしたが、すぐに慣れ、そのぬめぬめした柔らかさが、小さい時の泥んこ遊びの面白さに重なって行く。泥の中での体重移動は難しい。しかも腰を曲げて、苗の塊から、三、四本の苗を抜き取り、それを器用に泥の中に植えていかなければならない。水の中の土はふわふわしている。泥の中に苗を埋め込んでも、暖簾の中の腕押しのように、苗は頼りなく浮いてくるように思われる。素人の悲しさ。プロの農家の人は、このようなときどのような技で解決しているのだろうか。

いつの間にか田植えに夢中になる。小鳥がさえずる。山の新緑が私たちを包み込む。こんな時、自然に唄のようなものを唸りたくなる。田植えの民謡！

社協と山中町の方々の、時間をかけた前もっての丁寧な準備がなければ、こんな楽しい経験はできないに違いない。あぜ道のすぐそばで作っていた、タケノコと油揚げの味噌汁も絶品。テントの中での昼食。

秋の稲刈りまで、苗が無事に成長しますように！

そして今年こそは、そのもち米で、餅つき大会ができますように！